

よなきじぞう ださら おおいし

夜泣き地蔵／出砂原の大石

出砂原の夜泣き地蔵石

ひつじ まんすい

未の満水(1715(正徳5)年)の際の土石流で、大島川上流から流されてきた高さ3mの大石。受難者を供養するために二基の地蔵があり、夜泣き地蔵石とも呼ばれている。石の横を通ると赤ん坊の泣き声が聞こえ、地蔵様を建てたら泣き止んだと言い伝えられている。



二基の地蔵



民家の裏にある地蔵石



「出砂原」の地名が、大島川からの土砂流出の多さを物語っているように、この地域の人々は、大島川からの土砂流出と天竜川の出水とに翻弄されてきた。

出砂原の六地蔵は1841(天保12)年に再建されたものであるが、初めに建立された六地蔵は未の満水で流された。この時流されずに残った地蔵が、この大石の上に祀られているのではないかと伝えられている。

この大石は民家の裏庭にあり、人目に付きにくい場所にあるが、市田駅前の店舗(学習塾)の裏を回って近づくことができる。後方の道からも見ることができる。

information

□ アクセス
市田駅から100m
徒歩→1分

□ 所在地
高森町下市田



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)